

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名: AI・数理データサイエンスセンター

部局長名: 阿部 匡伸

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p>【AI・数理データサイエンス教育推進部門】 昨年度認定された数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に対応した教育プログラムの評価を行い、改善を図る。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に対応した教育プログラムを開発・実施し、同制度の認定を目指す。 また、エキスパート・トップレベル人材育成のための戦略を立案するとともに、研究会・シンポジウム等への学生参加を促すとともに、AI・数理データサイエンス分野での研究や起業を志す学生に対する指導・助言などを通じて、実践的な教育を推進する。 さらに、中国ブロック拠点校(広島大学)主催事業への参画、全国コンソーシアムとの情報共有を図っていく。</p> <p>【サイバーフィジカル情報応用研究推進部門】 全学からAI・数理データサイエンス分野関連の研究者を集めた研究会を実施し、学内組織と連携し、同分野をテーマにしたセミナーやシンポジウムを開催し、学外者にも公開することにより大学の知の社会還元を図る。 また、グリーンイノベーションセンターと協力し、国際共同研究を推進するための方策を実施する。 外部競争的資金の獲得を目指した同分野における研究をサポートすることにより、本学における同分野の研究力の強化を図る。</p> <p>【データサービス推進部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロステップ・スタディの基盤を活用した広告データサービス(メールメッセ)に企業広告を掲載することで、学生と企業の新しい接点を創出し、学生と企業の最適なマッチングを図る。 ・マイクロステップ・スタディにより得られる成果をメディア等にアピールして、試行も含めて他の団体への拡大を図る。 ・メールメッセから取得した広告データの分析を行ってフィードバックするしくみを試行すると同時に、広告に対する基礎的な反応データを分析することで、メールメッセの配信拡大および広告収入の増収のために活用できる科学的根拠を集積する。 	<p>管理運営領域の目標の達成状況</p> <p>【AI・数理データサイエンス教育推進部門】 昨年度認定された数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に対応した教育プログラムの評価を行い、医学部医学科、農学部において「数理データサイエンスの基礎」を今年度より選択で開講、来年度より必修として開講することとした。また、各学部において数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に対応した教育プログラムを開発・実施をし、次年度での申請の土台を構築した。 エキスパート・トップレベル人材育成のための戦略については、クロスプログラムの申請に協力し、採択された。統計エキスパート人材育成プロジェクトの研修生を専任教員として採用し教育を推進していくこととしている。 また、中国ブロック拠点校(広島大学)、全国コンソーシアムのシンポジウムや総会に参加し情報共有を図っている。</p> <p>【サイバーフィジカル情報応用研究推進部門】 Cypher研究会(4回)やSociety5.0シンポジウムの実施、岡山大学AI研究会の共催等の交流イベントを実施することでAI・数理データサイエンスを中心とする分野融合的な研究交流の場を継続的に提供した。 国際共同研究の推進については担当教授が退職したため進まなかった。年度当初には計画していなかった取り組みとして、以下に述べるSociety5.0研究支援プログラムの実施及び岡大DXコア「取組4:Mission・Projectベースオープンラボ」を行った。 前者は人事延長により生じた人件費の振替により学内の分野融合的データサイエンス研究を支援する事業である。8件が採用され、今後の研究力の強化に繋げる。 後者は、野上教授らの尽力で開始されたものであり、Cypherの目標の一つである先端的なDX、IoT、AI・数理データサイエンス人材育成のための新しい取り組みであり、研究力強化と教育の効果が期待される。</p> <p>【データサービス推進部門】 岡山県内の主要企業等7社に声をかけ全ての企業等からメールメッセ(広告)を提供いただき、ほぼ年間を通じて配信し、その対価として110万円を超える収入を広告費として得た。この中で次年度継続を希望する企業も出てきており、当該年度の事業により、配信する企業と学生を繋ぐ、新たな情報インフラが構築でき、次年度以降そのインフラをさらに有効活用することが可能となった。 マイクロステップ・スタディ(MSS)がGTECの総合的英語力スコアを向上させることが検証されており、これについて学術雑誌に現在投稿中である。 メールメッセについては、アクセスログデータを収集するシステムを昨年度から今年度にかけて開発し、断続的に改良を重ねているところである。既に半年以上にわたり継続的に個々のコンテンツの配信数とクリック率を測定・集約して、そのデータから配信数とクリック率の関係性を検討した。このようなシステムとデータは学術領域には一切存在しないものである。 さらに、MSSとメールメッセの成果について文部科学省のクロスプログラム事業のキックオフシンポジウムにおいて広く周知することができた。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。